

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1991. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 90

日本野鳥の会 埼玉県支部

吉見百穴周辺 in WINTER

榎本秀和 (鴻巣市)

史跡として有名な吉見百穴(比企郡吉見町)の周辺は、探鳥地としても知られる場所である。埼玉県支部でも毎年秋冬に探鳥会を行なっているが、今月4日の探鳥会に先立ち、吉見百穴周辺の魅力をご紹介したい。

はじめに

1986年1月より、筆者は吉見百穴周辺での探鳥会を担当している。この場所での探鳥会をなぜ筆者が担当することになったかといえ、当支部の役員中でいちばん地の利があるというのが理由であろうか。しかしながら筆者は、百穴周辺をフィールドとしているわけではない。秋冬に行なわれる探鳥会を通じてしかこの場所の野鳥たちとつきあったことがないのである。そんなわけで、本稿では秋から冬場にかけての百穴周辺についてご案内することにする。

1. 地形と鳥相

百穴周辺は比企丘陵の東縁に位置し、起伏に富んだ地形である。丘陵の所々には灌漑用の池沼が散在し、南側の市野川ぞいには田園地帯がひらけている。丘陵の雑木林、池沼や河川、田園や芦原といった環境が入り組んでいるため、生息する野鳥の種類も多い。探鳥会で40種も観察できることもある。県内の探

鳥会で40種出したとなると、担当リーダーとしてはちょっと鼻が高い。

秋から冬場にかけての百穴周辺の魅力は、ずばりカモとタゲリであろう。もうひとつ挙げるとすれば猛禽となる。

2. 吉見百穴

探鳥会の起点は百穴である。駐車場(有料)もあるし、鴻巣方面・東松山方面からのバス停も近い。

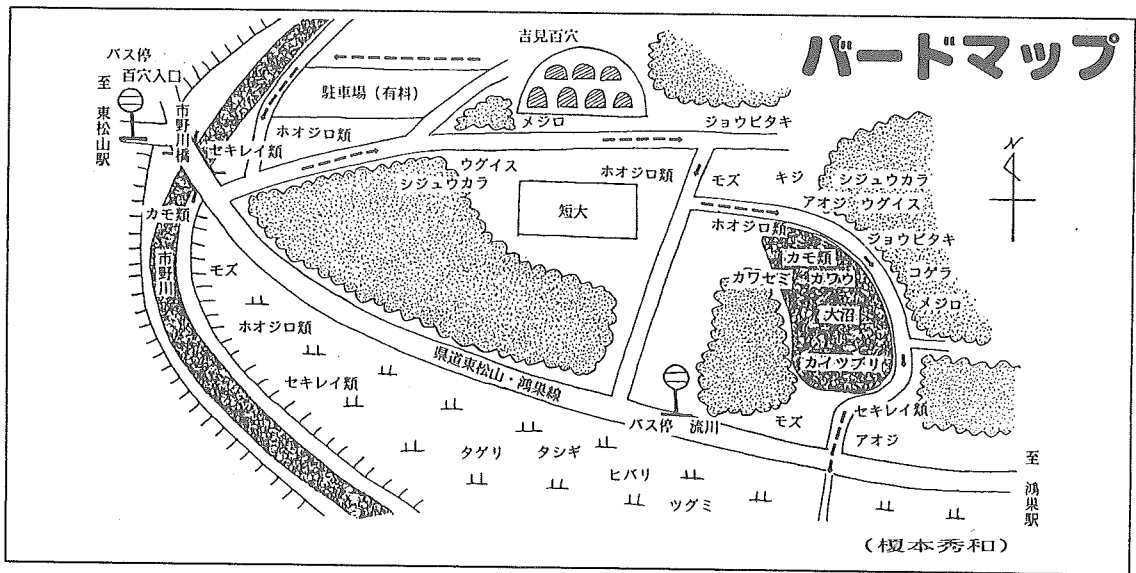
さて、まずは頭上を見上げよう。タカが飛ぶことには常に注意を払う必要がある。

駐車場からは市野川ぞいの道に上がり、川原をのぞきながら歩く。水辺や藪には小鳥が見え隠れしている。木立にアトリが見られたこともあった。

探鳥会では、このあと市野川橋とは反対の方向、大沼へ向かう道筋をとることにする。人家の庭先や木立に鳥影を探しながら歩こう。ジョウビタキの縄張り争いなどに出くわすと探鳥会は盛り上がる。そういえば、ニューナ

全国一斉調査における大沼のカモ類の動向

	1987年1月15日	1988年1月15日	1989年1月16日	1990年1月15日	1991年1月15日
	個体数 (%)	個体数 (%)	個体数 (%)	個体数 (%)	個体数 (%)
マガモ	1106 (54.%)	363 (37.%)	380 (60.%)	1250 (86.%)	396 (81.%)
カルガモ	309 (15.%)	152 (15.%)	43 (6.%)	19 (1.%)	1 (0.%)
コガモ	412 (20.%)	128 (13.%)	91 (14.%)	56 (3.%)	11 (2.%)
トモエガモ	3 (0.%)	1 (0.%)	- (0.%)	- (0.%)	- (0.%)
ヒドリガモ	38 (1.%)	4 (0.%)	- (0.%)	- (0.%)	- (0.%)
オナガガモ	42 (2.%)	48 (5.%)	3 (0.%)	1 (0.%)	6 (1.%)
ハシビロガモ	88 (4.%)	100 (10.%)	18 (2.%)	4 (0.%)	8 (1.%)
ホシハジロ	50 (2.%)	162 (16.%)	87 (13.%)	122 (8.%)	57 (11.%)
キンクロハジロ	- (0.%)	7 (0.%)	5 (0.%)	1 (0.%)	7 (1.%)
種数	8種	9種	7種	7種	7種
個体数計	2048 (100.%)	965 (100.%)	627 (100.%)	1453 (100.%)	486 (100.%)
87年の個体数を100とした指数	100	47	31	71	24
調査当日には見られなかったが、そのシーズン中の探鳥会等では観察されている種	ヨシガモ キンクロハジロ キョウアイサ※ ※筆者未確認		トモエガモ ヒドリガモ	オシドリ※ ※筆者未確認 トモエガモ ヨシガモ ヒドリガモ カワアイサ	ヒドリガモ 番外 アヒル 3 (調査当日も)



イスズメの出たこともあった。県内でのニューナイスズメの記録は、熊谷の大麻生以外にはあまり聞かない。

ところで、このコースのポイントのひとつとしていた場所に短大が建設されてしまったのだが、その場所がどう変っているか、今度の探鳥会ではちょっと気がかりである。

3. 大沼

百穴湖とも呼ばれるこの沼では、毎年1月に全国一斉調査としてカモ類のカウントが行なわれているが、探鳥会を含め、この5年間では13種のカモが観察されている(表参照)。トモエガモを観察することもしばしばである。

沼の東岸にそう道をカモを見ながら歩いて行く。午前中は沼の方は逆光になってしまうこともあるが、その分、沼の反対側の林の中は明るくなって、小鳥たちの姿が見やすくなる。カモも林の小鳥も、両方とも楽しんでしまおう。ただし、意外に自動車の通行が多いので要注意。

なお、沼の西岸は畑になっているが、岸边には樹木が生い茂っていて沼を見渡すことはできない。探鳥のコースとしては東岸の道を選ぶしかないようだ。

沼で見られる野鳥のうち、カワウは1989年秋以来の新参者である。それ以前には、少なくとも筆者はこの場所でカワウを見かけたことはなかった。

4. 田園地帯

沼の南端にたどり着いたら、県道を渡って南側に広がる田園地帯に足を踏み入れる。あぜ道をたどりながらタゲリの群を探してみよう。昨シーズンは比較的数量が多かったようだが、今シーズンはどうだろうか。注意深く探せばタシギやケリの姿を見つけることもある。筆者にとってここは、初めてケリを見た思い出の場所だ(それまでは東海道新幹線の中からはしか見たことがなかった)。

ところで、冒頭で上空のタカに注意と述べたが、百穴周辺はけっこう猛禽が姿を見せてくれる。秋冬ならオオタカ・ノスリ・ハヤブサ等々、探鳥会でもよく出ている。獲物を求めてか、比較的低空を飛ぶこともあるので猛禽ファンにはおもしろい。

さて帰り道だが、来た道をそのまま戻るのもよいし、あるいはあぜ道をさらに進んで市野川ぞいに百穴に出るのもよいだろう。また、近くの流川バス停でタゲリを眺めながらバスを待つのも楽しい。

おわりに

ここ数年間の探鳥会の体験を基に吉見百穴周辺を駆け足でご案内させていただいた。とはいっても、筆者などよりずっとこの場所の野鳥と親しくしている方もいると思うので、お気づきのことがあればご教示いただきたい。

それでは探鳥会でお会いしましょう。

地鳴きコーナー

カルガモ騒動記

武藤健二(所沢市)

所沢市の中心にある県立航空記念公園の中にある池で、今年初めてカルガモが繁殖し、親子のかわいい姿が市民の人気を呼んだ。

8月18日早朝、私は妻を伴って、おにぎりを持ち、撮影に行った。

この池には人工の川が流れ込んでおり、水位が一定に保たれるように排水口が設けられている。排水口は3畳ほどもあり、金属の格子状のアミがかけられている。9羽のヒナと親鳥は泳いで来ては時々この上にあがって、羽づくろいなどして休んでいる。

釣り人や、散歩で立ち寄った人達5~6人が見ている前で、ヒナが1羽、アミ枠の間から落ちた。

「あっ、おっこった」50がらみの、みのもんた風のしゃべり方をするおじさんは、すかさずサクを越えてのぞき込んだ。「3羽落ちてるヨ」。「だれか、あみ、あみ」近くにいたおばさんが、あわてて釣り人のところに行って、あみを借りて来た。もんたおじさんは重い枠をどけて救出しようとしたが、ヒナ達はそれに驚いて奥の方に逃げ、下水管を流れて行ってしまった。

さあ、それからが大変。居合わせた人達は、何とか助け出そうと動き始めた。まずこの水路はどうなっているのか調べて見ようと、私を含めた4人が公園事務所につめかけた。もんたおじさんは、池に流れ込む水を止めれば排水の流れも止まり、ヒナ達が自力で遡上して来られるから、水を止めてくれと職員に言った。

しばらくして職員が池まで来て流れ込む水を止めたが、池が大きいためになかなか排水は止まらない。そのうちあきらめムードにな

り、人もだんだんいなくなった。私たちも帰りかけたところ、排水口近くのマンホールからヒナの声らしきものが聞こえて来た。マラソン途中の50過ぎ角刈りメガネのおじさんと私は、また公園事務所にかけて、マンホールのふたをあけてもらうことにした。

職員2人の手でふたが外され、のぞき込むと、確かにヒナの声が聞こえてくる。50がらみ工務店の上着を着た人がもぐり込み、奥のぞいたが、声だけで姿は確認できない。

そのうち、もんたおじさんがどこからか戻って来て言った。「下流の川に排水の出口があるから、池の排水堰を上げていっきに水を流し、下流でつかまえよう」

堰を上げる時間を打ち合わせ、もんたおじさんと工務店おじさんは、排水出口に向かった。堰が上げられ、水は勢い良く流れ、ヒナの声はなくなった。しかし2人は20分以上もたってから戻って来て、ヒナは流れて来ないとのこと。堰はおろされ、排水は止まった。

しばらくすると、またヒナ達の声がかすかに聞こえて来た。工務店おじさんがマンホールにもぐり込んだが、やはり見つからない。

やるだけのことはやった、あとはヒナ自身が明るい方にのぼって来るのを期待するしかない、マンホールを閉め、時々ぞいてみようということになり、集まっていた人たちが散らばり始めようとしたところ、工務店おじさんが、そのふたと同じマークのふたがあっちにもあったと発言。念の為確かめようということになった。

「いたいた!かたまっているよ」の声に20~30m離れたマンホールにかけつくと、深さ5mほどの下の水面にヒナが3羽、かたまって浮かんでいた。

もんたおじさんが親ガモの近くに持って行き離してやると、親ガモはガアガア鳴き騒ぎ、他のヒナ達とすぐに寄って来て合流した。

「よかった、よかった」。救出作戦にかかわった人たちは不思議と一体感を感じて立ち去りがたく、ヒナは2週間ほど前に孵化し、初め11羽いたなどと話していた。

マラソンおじさんの「それじゃ、皆さん」の言葉をきっかけに、皆、それぞれ散って行った。時計はもう10時をまわっていた。

落ちてから約3時間、前と同じ様に、カルガモ達は池を泳ぎまわっている。



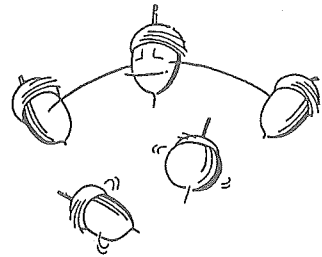
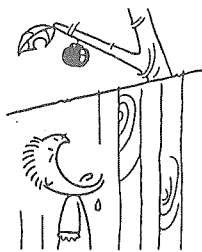
探鳥会の功罪

三田長久 (狭山市)

いつも探鳥会に参加していますが、ふと疑問に思ったことがあります。日本野鳥の会は自然保護の団体なのですが、その主たる活動である探鳥会は、自然保護に役立っているのでしょうか？

鳥を見に行くと、我々が道を歩くことによって、鳥の餌となるべき虫や野草を踏み潰すこともあるでしょう。また、鳥達は普段の生活が少し乱されることは確実でしょう。行き帰りに自動車を使えば、事態はさらに悪くなります。エネルギーの過剰消費は自然破壊の主要因であり、さらに、化石燃料の消費によって、地球の微妙な二酸化炭素のリサイクルを乱してしまいます。これでは自然保護になりません。

功の方も考えてみましょう。探鳥会では、鳥の美しさに感動し、自然を愛する心が育まれるでしょう。また、鳥を探して周囲を見渡せば、汚れた川、放置されたゴミ等で自然破



壊が進行中であることを実感します。越生の探鳥会では、ゴルフ場の開発によるすさまじい自然破壊の実態を目撃しました。この結果、参加した人々が何らかの形で自然保護の運動に加わるようになれば、はじめて探鳥会が自然保護に役立っていると言えるのではないでしょうか。

私が設計した狭山市探鳥会のコースは、出発地点と解散地点が違っており、両方とも電車の駅であり、駐車場がありません。これは、自動車で行くよりも電車で行った方がいいなと思ってもらうためなんです。探鳥会の罪の部分を減らすためにも、探鳥会には電車で行きましょう。

このように、車に乗らない、冷暖房をひかえる、電灯をこまめに消す、古紙・牛乳パックの回収に協力する等々、すぐにもできる自然保護運動は、たくさんあります。

100年後、1,000年後の子孫が鳥見を楽しめることを念じて、自然保護に立ち上がりましょう。

事業部からのお知らせ

- 1992カレンダー発売中
表紙ルリビタキ、1月ツグミ、2月ケアシノスリ……いちだんとランクアップした写真の数々が、あなたのお部屋で息づきます。定価 1,100円/会員価格。探鳥会でお求めください。
- 支部オリジナルネームプレート
あなたのお名前を知りたいのです。ブルーのシラコバトマークに、黒くすっきりした文字。すてきなネームプレートを胸にどうぞ。定価 900円/送料 120円。
- 日本の探鳥地・東日本編・西日本編
日本の探鳥地777の改訂版として新発売。支部幹事たちも改定執筆に協力。定価各 1,980円。



野鳥情報

カイツブリ ◇9月23日、幸手市木立の中川で親子連れ（秋間利夫）。

ヨシゴイ ◇9月5日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽。羽音がしたので、振り向いたら、横目でこちらをにらんでいた（菱沼一充）。

ゴイサギ ◇9月29日、幸手市上吉羽の中川で60羽以上（秋間利夫）。

アマサギ ◇9月1日、浦和市秋ヶ瀬A区で約50羽。B区で約30羽（福井 亘）。

ダイサギ ◇9月23日、幸手市戸島で2羽（秋間利夫）。

チュウサギ ◇9月23日、幸手市戸島で25羽以上（秋間利夫）。

アオサギ ◇9月15日午前8時30分、本庄市の阪東大橋下流の中州で1羽。トビが鮎をくわえると、いかにも物欲しそうに「ゴァーッ」と鳴きながらどこまでも追いかけて行った（町田好一郎）。◇9月29日、幸手市上吉羽の中川で6羽（秋間利夫）。

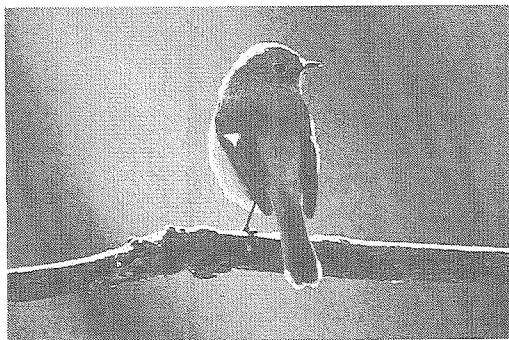
コガモ ◇9月22日、戸田市道満貯水池で数羽（渡辺喜八郎）。◇9月29日、杉戸町大島新田の調節池で20羽以上（秋間利夫）。

ヒドリガモ ◇9月22日、戸田市道満貯水池で数羽（渡辺喜八郎）。

オナガガモ ◇9月22日、戸田市道満貯水池で数羽（渡辺喜八郎）。◇9月29日、杉戸町大島新田の調節池で1羽（秋間利夫）。

シマアジ ◇9月1日、大宮市三橋の関沼で♀型1羽（福井 亘）。

キンクロハジロ ◇9月23日、杉戸町大島新



ジョウビタキ（登坂久雄）

田の調節池で2羽（秋間利夫）。

トビ ◇9月23日、幸手市木立の中川で1羽（秋間利夫）。

オオタカ ◇9月16日午前7時頃、本庄市の阪東大橋下流近くの高校前の木立で幼鳥1羽。赤い実のなる木の下にひそみ、訪れたキジバトをアタック！ビデオ撮影に成功する（町田好一郎）。◇9月21日、浦和市秋ヶ瀬のA区で成鳥1羽。浦和市下大久保の鴨川排水機場西側の林で幼鳥1羽（福井 亘）。◇9月22日、戸田市道満で1羽（渡辺喜八郎）。

ツミ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽。オナガ20羽以上にモビングされていた（福井 亘）。

サシバ ◇9月5日、皆野町の美の山（秩父側）にて幼鳥1羽。道路脇カーブミラー上に止まっていた（山口輝雄）。◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽（福井 亘）。◇9月25日、皆野町親鼻上空を午後1時40分から50分、サシバを主に、ツミ、ハチクマ、約35羽が長瀨町の宝登山から皆野町の美の山方向へ帆翔飛行確認（山口輝雄）。◇9月29日午前8時30分頃、大滝村の三峰山頂ケーブル駅で合計24羽、南南西へ飛ぶ（山岸昭治）。

チョウゲンボウ ◇9月15日、浦和市下大久保の鴨川排水機場で♀2羽。浦和市秋ヶ瀬の大久保浄水場で♂1羽。浦和市秋ヶ瀬の荒川取水堰で1羽。浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で2羽（福井 亘）。◇9月18日午前8時頃、本庄市の阪東大橋下流の中州の木立の上で♂♀各1羽。互いに反対向きで、約1時間位ジューッとしていたが、さてさて、彼らの胸のうちは・・・？（町田好一郎）。◇9月23日、幸手市木立で1羽（秋間利夫）。

タマシギ ◇9月7日、浦和市秋ヶ瀬のB区で♂♀各1羽（福井 亘）。◇9月16日、浦和市秋ヶ瀬の稲刈りの終わった田んぼで♂1羽（漆原正浩）。

コチドリ ◇9月29日、幸手市上吉羽の中川で6羽（秋間利夫）。

ムナグロ ◇9月1日、浦和市秋ヶ瀬のA区

で約40羽(福井 亘)。

アオアシシギ ◇9月29日、幸手市上吉羽の中川で5羽。『暮れ行きて アオアシの声川面去り』(秋間利夫)。

タカブシギ ◇9月29日、杉戸町大島新田の調節池で5羽(秋間利夫)。

チュウシャクシギ ◇9月23日、杉戸町大島新田で1羽(秋間利夫)。

コシギ? ◇浦和市秋ヶ瀬のB区で3羽(福井 亘)。

シラコバト ◇9月15日、行田市下須戸で26羽(漆原正浩)。

ツツドリ ◇9月5日、東浦和駅近くの差間で1羽。のどが白っぽく、黒い斑らしき模様があることや後頭部にも白い斑があることなどから、若鳥と思われる(伊藤芳晴)。

◇9月7日、浦和市秋ヶ瀬のB区で1羽。

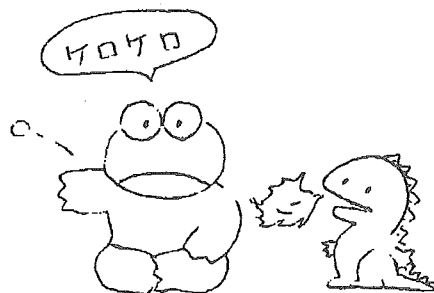
数時間後にA区でも1羽見たが、同一個体の可能性大(福井 亘)。

◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。

コゲラ ◇8月27日、浦和市北浦和の中山道の上を通過する(福井 亘)。

ショウドウツバメ ◇9月1日、浦和市秋ヶ瀬のA区、B区でそれぞれ2羽(福井 亘)。

◇9月1日、幸手市外国府間の権現堂川で



(厚沢 清美)

30羽以上(秋間利夫)。

ハクセキレイ ◇9月15日午後12時頃、浦和市下大久保の鴨川排水機場で20羽以上の群れが、チョウゲンボウに追われていた(福井 亘)。

オオルリ ◇9月22日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(福井 亘)。

エゾビタキ ◇9月22日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。

コサメビタキ ◇9月22日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。

コムクドリ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(福井 亘)。

◇9月21日、浦和市秋ヶ瀬のA'区でムクドリの群れ中に1羽(福井 亘)。

カモの呼ぶ声

私の好きな曲のひとつに「冬景色」という唱歌がありますが、そこに「ただ水鳥の声はして いまだ覚めず岸の家」という一節があります。朝もやの中から聞こえてくるのはどんな声でしょうか。「ピリッ、ピリッ」というコガモのカワイイ声。ときおり聞こえるのは「グアア〜ゲエゲエ」というマガモおばさんの声でしょうか。のどかですね〜。

コガモ、マガモの他によく聞こえるのが、

表紙の写真

「ゲエッ、ゲエッ」というカルガモの声。「ピュー」と大きく口を開けて、鋭く鳴くのは、ヒドリガモです。これでもかというくらい思いっきり口を開けて鳴く姿は、けなげでさえあります。「ツルの一声」ならぬ「ヒドリの声」ですかね。

冬の身近な野鳥であるカモたちの鳴き声を楽しむのもおもしろい事かと思えます。

(藤原寛治)

ネチャーフォトコンテスト1991入選作

ノスリ(ワシタカ科)

河原は、砂が舞い上がる大風の中。

いつもは50mくらいしか近寄れないこのノスリも、今日は出会い頭だった。お互いにこの風の中、少し警戒心をゆるめたらしい。

車の屋根によじ登って、夢中でシャッター

を押した。逃げなかった。

その目は、砂嵐の中でも、しっかり見開いていた。

12月下旬 本庄市利根川

(林 滋・美里町)

行事あんない



11月1日～7日はバードウォッチングウィーク。支部では、期間中に4カ所で、探鳥会を開催します。お友達や家族の方にも、声をかけてみて下さい。

11月3日の行事の詳細は、先月号をご覧ください。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日（日・祝）

集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日（日・祝）

集合：午前7時20分 丸山公園北駐車場

交通：上尾駅西口から西上尾車庫行きバス

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：11月4日（月・代休）

集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前

交通：東武東上線東松山駅東口8:58発または高崎線鴻巣駅東口8:50発バスに乘車

担当：榎本、岡安、内藤、吉原

見どころ：まずは、カモ君とお友達になろう。

沼にのんびり浮かぶカモの仲間は、観察しやすいのでビギナーの強い味方。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：11月4日（月・代休）

集合：午前9時 浦和市西口バスロータリー

担当：福井、海老原、草間、小林（み）、手塚、伊藤、笠原

見どころ：雑木林で秋を満喫。色づきはじめてた林の小道をたどる。ふと、足を止め、

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般 100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会 埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

耳をすませば、カシラダカやシメの小さなつぶやきが……

栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月9日（土）

集合：午前6時45分 大宮駅東武線改札口または午前7時半 春日部駅日光行きホーム

交通：春日部7:48発快速日光行きに乘車。切符は日光フリーパスが便利。

解散：現地にて午後3時ごろ。春日部帰着は午後7時半ごろの予定

担当：中島、楠見、草間

見どころ：キバシリ、カワガラスなどおなじみのメンバーに加え、赤い鳥、珍しい鳥との出会いにもご期待ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月10日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

担当：諏訪（隆）、岡安、林、関口、菱沼

見どころ：ツグミさん、こんにちは。渡ってきた冬鳥たちの元気な姿を楽しみながら、小春日和の大麻生を歩きましょう。

川口市・差間探鳥会

期日：11月10日（日）

集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前

担当：手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：晩秋の野の楽しみ。斜面林の紅葉を眺め、ホオジロ類の地鳴きに耳を傾け、チョウゲンボウの飛翔にときめいて…秋は寂しいなんて言っていられません。

大宮市・深作川探鳥会

期日：11月10日（日）

集合：午前8時45分 東大宮駅東口（集合後
アーバンみらい行きバスで現地へ）

担当：中島、吉原、馬場、林（慎）、入山

見どころ：水鳥ファンお待ちかねの新探鳥会。
シギ・チドリ類やサギ類が多く、時には珍客も現れる、フシギなどところ。なんとなく気になる深作川へ、一緒に。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月17日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集会後、バスで現地へ）または、
午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：冬鳥との再会。ツグミ、ジョウビ
タキ、タヒバリなど半年ぶりの顔ぶれが揃います。覚えていてくれたかな？

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：11月17日（日）

集合：午前10時 秩父鉄道長瀬駅前

担当：林滋、町田、諏訪、菱沼

見どころ：カワセミ、ヤマセミの豪快フィッシング。紅葉に彩られた荒川の急流にキングフィッシャーたちが舞う。自然の織りなす華麗な絵巻物。

桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月17日（日）

集合：午前8時45分 JR高崎線桶川駅西口

担当：榎本、岡安、吉原、立岩

見どころ：タゲリの群れがふわり、ふわり、秋の田を飛び交います。澄んだ空にいちだんと映える、黒と白の粋な装い。

狭山市・入間川探鳥会

期日：11月24日（日）

集合：午前9時10分 西武線狭山市駅西口

担当：長谷部、石井、佐久間、三田、柳原

見どころ：新定例探鳥会です。よろしく（Ⅰ）
水辺の鳥を中心に、山野の鳥も楽しめるコース。奇数月の第4日曜は、ぜひ狭山へお越し下さい。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月30日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：11月30日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：12月1日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口
（集会後、現地までバス利用）

担当：町田、北川、林、小淵

見どころ：いよいよ本番、カモの季節。種類も数もそろったし、雄の換羽もそろそろ完了。あとは、あなたが来るのをまつだけ。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月1日（日）

集合：午前9時20分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前
8：50発北里メディカルセンター行きバスに乗車（注：北里病院の送迎バスです。病院へ行く方に迷惑のかからないよう、充分ご注意ください）。

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口

見どころ：新定例探鳥会です。よろしく。（Ⅱ）
大きく変貌した石戸宿。残された小さな林のこれからを、一緒に見守ってゆきましょう。偶数月の第1日曜です。

*一泊探鳥会のお知らせ

・ガンハクチョウを訪ねて新潟へ

11月22日（金・夜行）～24日（日）

詳しくは先月号をご覧ください。

・伊豆沼探鳥会

平成4年1月11日（土）～12日（日）

詳しくは11ページをご覧ください。

行事報告

8月31日(土)『しらこぼと』袋づめの会

作業を楽しんだ人 青沼俊雄、荒木恒夫、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、神場真文、佐藤晶人、塩野谷静子、墨江光子、丹茂子、登坂久雄、長野寛、中村治、中村重勝、藤野富代、渡辺敦 (16人)

ウジョシギ1~2羽が時々現れただけ。特筆すべきは、エリマキシギ(幼鳥2羽)。初めての、あるいは久しぶりのご対面だった人が多かったようだ。(小林みどり)

8月31日(土) 写真クラブ定例会

参加者 16人 作品発表 5人



ホシガラス (青沼俊雄・越谷市)

9月8日(日) 熊谷市 大麻生
雨のため中止。

9月8日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟
雨のため中止。

9月15日(日) 浦和市 三室地区

人 59人 天気 曇 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモバン コジュケイ タカブシギ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 雨ばかりの9月で心配していたが、なんとか雨降りとならずに探鳥会を行うことができた。三室の参加者は、みんな良い人なのです。芝川は増水していたが、カイツブリやバンが出現し、はやくもコガモが北の国から帰ってきました。今日は、リーダー研修会で誕生した新リーダーの入山さん、高草木さんが登場して、参加者の拍手を浴びました。(楠見邦博)

9月7日(土) 川崎市 多摩川河口

人 19人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ムナグロ ダイゼン シロチドリ メダイチドリ キョウジョシギ アオアシシギ エリマキシギ オオソリハシシギ オグロシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (26種) 照りつける日差しは、まだまだ夏。けれども、時折、涼しい風が吹き、キンエノコロの穂がそよぐのを見ると、やっぱり9月だな、と思う。潮の具合もちょうど良く、干潟が広がる。よく目立つサギ類やカワウ、ウミネコの群れの中を探すと、お目当てのシギ、チドリの姿が。今回は、なぜか小型のシギが少なく、キョ

9月22日(日) 寄居町 鐘撞堂山

人 46人 天気 晴 鳥 ハチクマ トビ オオタカ ハイタカ サシバ コジュケイ キジバト ツツドリ コゲラ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ エゾビタキ コサメビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ

ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 台風の影響や、長雨のため、心配したが、天気もやっと好転した。朝は曇り空だったが、山頂に着くころには日差しは暑く、皆汗だくだった。山頂では、ハチクマやコサメビタキも見られた。しかし、山頂では鳥よりもトンボの群れやアゲハチョウの多いのが目だった。ツツドリも全員でみられた。まずは上々の探鳥会。(林 滋)

9月23日(月) 浦和市 秋ヶ瀬

人 67人 天気 晴 鳥 アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ ムナグロ アオアシシギ タカブシギ タシギ アカエリヒレアシシギ キジバト アマツバメ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) この時期、秋ヶ瀬はどこに行ってもシギ・チばっちりと、例年通り自信満々で企画した探鳥会のはずなのに、今年には長雨のせいか大はずれ。鳥が大変に少ない。昨日までいたセイタカシギもいない。30羽もいたアカエリヒレアシシギも見つからない。あせるリーダー、疲れる参加者。最後にアカエリヒレアシシギが2羽出て何とかすくわれて、鳥合わせしたら27種。いないないと思っても、結構それらしい種類数が出るものですね。(海老原美夫)

9月28日(土) 写真クラブ定例会

参加者 13人 作品発表 2人



セイタカシギ (海老原美夫・浦和市)

9月28日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア 荒木恒夫、伊藤宏、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、小野光明、鈴木啓紀、中村治、平野樹夫、藤野富代 (10人)

9月29日(日) 本庄市 阪東大橋

人 16人 天気 晴後曇 鳥 カイツブリ アマサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ トビ コジュケイ シロチドリ アオアシシギ イソシギ ユリカモメ キジバト ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ コヨシキリ エゾビタキ コサメビタキ ホオジロ カワラヒラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 青空を乱舞する何百というショウドウツバメたち。林滋幹事差し入れの秋の味覚「あけび」を皆でほおばりながら、先ずコサメビタキにごあいさつ。草原ではノビタキの♂♀。河原では、アオアシシギが待っていてくれた。中州ではつい1時間前まで見られなかったコガモとヒドリガモが出現、リーダーもびっくり。その上、終了寸前にはエゾビタキが3羽も出てしまい、全員大喜び。テクテク歩きの帰路では、3羽のカワセミ、キジやコシアカツバメ、チョウゲンボウがやさしく見送ってくれた。秋の空気をお腹いっぱい吸い込んだ、おいしい探鳥会だった。(町田好一郎)

伊豆沼探鳥会

期日 平成4年1月11日(土)～12日(日)
 交通 貸し切りバス利用
 定員 35名(先着順、ただし支部会員優先)
 申し込み 往復はがきに住所・氏名・電話番号・年齢・性別を明記の上、中島康夫(〒:)まで
 費用 約22,000円(宿泊費・交通費・弁当代・参加費・保険料など)
 担当 中島康夫、松井昭吾、楠見邦博、小林みどり
 見どころ 国内最大のマガンの越冬地。1万羽近いマガンやハクチョウ、オジロワシなど。
 問い合わせ先 (中島・夜間)



連絡帳

団体署名など

●石川支部から、白山国立公園バス路線延長計画反対団体署名の依頼が届きました。白山の豊かな自然生態系を守る運動に賛同し、埼玉県支部として、環境庁・建設省・石川県に対する要望書に団体署名、送付しました。

●渥美自然の会（愛知県渥美郡赤羽町）からは、渥美縦貫道は山林を通さないことを求める団体署名の依頼が届き、サシバの渡り途中の休息地の山林を守るため、愛知県知事に対する要望書に団体署名して、送付しました。

●長良川河口堰に反対する会・岐阜・東京・埼玉の各組織から、10月6日デモへの協力依頼が届き、ピラを多数コピー、探鳥会などで配布しました。

ネイチャーフォトコンテスト1991

入選作品決定

9月23日（月）の役員会で、出品者名を伏せた作品本位の採点制による審査の結果、次の通り入選作品が決まりました。

ムクドリ（青沼俊雄）、イワヒバリ（榎本秀和）、オオソリハシギ・ゴイサギ・タカブシギ・タシギ・タヒバリ・ニホンザル・ホオジロ・ヤマガラ（海老原美夫）、コサメビタキ・コジュケイ・シメ・ジョウビタキ・タシギ・ツバメチドリ・ハンミョウ・ミヤマホオジロ（登坂久雄）、コミミズク・ヨシゴイ（野川一臣）、ノスリ・ダイサギ・アカハラキアゲハ（林 滋）、オナガ・カワセミ・ダイサギ・オンドリ・コハクチョウ（町田好一郎）、アゲハ（渡辺敦）。

応募数野鳥部門43、その他の部門12、計55。入選はそれぞれ26、4、計30でした。すでにパネル展や埼玉新聞連載などに登場。本誌表紙もお楽しみに。

久しぶりのおわびコーナー

6月29日（土）袋づめの会の参加者名簿が

行方不明。ボランティアのお名前を掲載できなくなりました。ごめんなさい。

11月の土曜日当番（2時～6時）

- 2日 伊藤芳晴 菱沼洋子
- 9日 小淵健二 小林恒雄
- 16日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）
- 23日 手塚正義 小林芳江
- 30日 袋づめの会（1時から）

ご寄付にお礼

市田則孝 1,000円、神山和一郎 2,000円、田村・水辺の鳥シリーズ切手62円60枚、松井昭吾20,000円、山岸昭治・シラコバトのカービング、吉田佳代 2,000円、リーダー研修会参加者 4,600円。（50音順、敬称略）

会員数は

10月1日現在 1,691人です

活動報告

- 9月14日 研究部会議。編集部会議。
- 9月14～15日 奥多摩支部主催の関東ブロック会議に出席（鈴木支部長、松井・海老原副支部長）。
- 9月23日 役員会議（司会・内藤義雄、パネル展企画・団体署名・コンテスト審査など）
- 9月26日 新しい探鳥会用旗と腕章を発注。
- 9月27日 パネル展後援依頼、打ち合わせのためアイリスメガネ本社へ（海老原）。



編集後記

毎週末の雨降りと台風でどこにも行けず、ウンザリの秋。予定していた山行がつぶれ、ぼんやり窓を眺めていたら、暴風雨の中、数羽のツバメが飛んで、いや、飛ばされて行った。鳥たちの渡りには、雨天順延くらいはあっても、雨天中止はないんだなあ。必至に旅を続ける鳥たちを眺めながら、部屋の中でのんびりビール飲んだりして、何だかんだ言っても、人間って楽なのかなあ。（みどり）

『しらこぼと』1991年11月号（第90号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048（832）4062
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）